

認定看護師教育基準カリキュラム

(特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関)

分野：手術看護

平成 27 年 3 月改正

平成 29 年 3 月改正 (共通科目のみ)

平成 31 年 4 月改正 (共通科目のみ)

令和 3 年 3 月改正 (共通科目のみ)

(目的)

1. 重症で複雑な病態をもつ患者の手術に対し、手術侵襲の低減と回復促進を目指し、手術決定から回復期の周術期を視野に入れ、熟練した看護技術を用いた水準の高い看護実践ができる能力を育成する。
2. 手術決定から回復期の周術期にある患者の看護において、看護実践を通して他の看護職者に対して指導ができる能力を育成する。
3. 手術決定から回復期の周術期にある患者の看護において、看護実践を通して他の看護職者に対して相談対応・支援ができる能力を育成する。

(期待される能力)

1. 手術を受ける患者の看護に関する最新の知識と技術を持ち、手術患者の身体的・心理的・社会的な状態を総合的に判断し、外回り看護師として個別的なケアを計画、実施できる。
2. 手術を受ける患者の看護に関する最新の知識と技術を持ち、術式により起こり得る事態を予測し、正確かつ迅速に器械、材料の受け渡しを行い、器械出し看護師として円滑な手術進行に貢献できる。
3. 術中の患者の急変及び緊急事態が発生した場合には、的確に状況判断し迅速かつ確実に適切なケアを提供できる。
4. リスクを回避するための最新かつ的確な情報をチームに提供し、術中の安全管理における調整的役割を發揮できる。
5. 手術決定から回復期の周術期にある患者・家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる。
6. 周術期にある患者に関わる全ての医療スタッフがそれぞれの専門性を發揮し、より質の高い医療を推進するため、リーダーシップを發揮し、多職種と協働することができる。
7. 手術看護の実践を通して役割モデルを示し、看護職者へ相談対応・支援を行うことができる。

教科目一覧

	教科目名	必修/選択	時間数		
共通科目	1. 医療安全学：医療倫理	必修	15		105 (+305)
	2. 医療安全学：医療安全管理	必修	15		
	3. 医療安全学：看護管理	必修	15		
	4. チーム医療論（特定行為実践）	必修	15		
	5. 相談（特定行為実践）	必修	15		
	6. 臨床薬理学：薬理作用	必修	15	小計	
	7. 指導	必修	15	105	
	8. 特定行為実践	選択	15		
	9. 臨床薬理学：薬物動態	選択	15		
	10. 臨床薬理学：薬物治療・管理	選択	30		
	11. 臨床病態生理学	選択	40		
	12. 臨床推論	選択	45		
	13. 臨床推論：医療面接	選択	15		
	14. フィジカルアセスメント：基礎	選択	30		
	15. フィジカルアセスメント：応用	選択	30		
	16. 疾病・臨床病態概論	選択	40		
	17. 疾病・臨床病態概論：状況別	選択	15		
	18. 医療情報論	選択	15	小計	
	19. 対人関係	選択	15	305	
専門基礎科目	1. 手術看護概論	必修	15		270
	2. 麻酔による生体反応	必修	45		
	3. 手術に対する生体反応	必修	15		
	4. 手術を受ける患者の理解	必修	15		
	5. 手術を受ける患者・家族の心理	必修	15		
	6. 手術室における感染対策	必修	15	小計	
	7. 手術室医療安全管理	必修	30	150	
専門科目	1. 手術看護技術	必修	45		120
	2. 手術医療における倫理	必修	15		
	3. 心理的支援の技術	必修	15		
	4. 手術チームマネジメント	必修	15	小計	
	5. 手術看護技術指導	必修	30	120	
学内演習・臨地実習	学内演習	必修	60		240
	臨地実習	必修	180	小計 240	
			総時間数	615 (+305)	

■共通科目

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
医療安全学： 医療倫理 (必修)	15	実践の場において、対象の人権擁護・知る権利・自律性（自己決定）を尊重した看護を提供するため、医療倫理についての理解を深め、実践活動にどのように反映できるか考察する。	1. 医療倫理の理論 2. 医療倫理の事例検討	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
医療安全学： 医療安全管理 (必修)	15	医療現場における安全管理をめぐる取り組みの経緯、医療事故発生のメカニズムについて理解する。また、実践の場において、看護職者及び他職種との連携を図り、医療事故を防止するための情報収集・分析・対策立案・評価・フィードバックを実践する能力を習得する。	1. 医療管理の理論 2. 医療管理の事例検討 3. 医療安全の法的側面 4. 医療安全の事例検討・実習	[授業形態] 講義、演習及び実習（医療安全）★ [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価
医療安全学： 看護管理 (必修)	15	わが国の保健医療制度の仕組みと動向を理解し、社会や地域住民のニーズに対応する医療サービスや看護のあり方を考察する。また、実践の場において質の高い看護サービスを効果的・効率的に提供するための戦略や自身の役割機能の展開などについて検討する。	1. ケアの質保証の理論 2. ケアの質保証の事例検討	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
チーム医療論 (特定行為実践) (必修)	15	質の高い医療・看護の効果的・効率的な提供に向けたチーム医療の推進について考察する。また、多職種協働の課題及び集団や組織の目標・課題を達成する上で必要なリーダーシップについて理解する。	1. チーム医療の理論と演習・実習 2. チーム医療の事例検討 3. 多職種協働の課題 ※特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割を含む	[授業形態] 講義、演習及び実習（チーム医療）★ [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価

★「医療安全学:医療安全管理」と「チーム医療論(特定行為実践)」の実習は、医療安全及びチーム医療の実習について、いずれか一方又は両方を行うものとする。

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
相談 (特定行為実践) (必修)	15	対象及び組織内外の看護職者や他職種などに対してコンサルテーションを行う際の知識や方法論について習得する。さらに、自らの役割と能力を超える看護が求められる場合には、自ら支援や指導を受けることの重要性について理解する。	1. コンサルテーションの方法	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
臨床薬理学： 薬理作用 (必修)	15	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態を踏まえた薬物の作用機序と、主要薬物の薬理作用・副作用について理解する。	1. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
指導 (必修)	15	組織内外の看護職者に対して、実践を通して知識・技術を共有し、相手の能力を高めるための指導能力を習得する。	1. 生涯教育と生涯学習 2. 成人学習者への教育 3. 教材観（主題観）、対象者観、指導観 4. 学習指導案の作成・発表	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。
特定行為実践 (選択)	15	特定行為実践のための関係法規を理解する。特定行為の実践に向け、根拠に基づいた手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後に再評価するプロセスについて理解する。また、特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を理解する。	特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程（理論、演習）を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ 1. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ ①特定行為関連法規 ②特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 2. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ ①手順書の位置づけ ②手順書の作成演習 ③手順書の評価と改良	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
臨床薬理学： 薬物動態 (選択)	15	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態について理解する。	1. 薬物動態の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
臨床薬理学： 薬物治療・管理 (選択)	30	安全確実な薬剤投与・管理を行うため、主要薬物の相互作用、主要薬物の安全管理・処方について理解する。	1. 主要薬物の相互作用の理論と演習 2. 主要薬物の安全管理と処方の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
臨床病態生理学 (選択)	40	臨床解剖学・臨床病理学・臨床生理学を学び、病態生理学的変化を判断するための知識を習得する。 演習を通し、病態生理学的変化を判断するための知識を深める。	臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学を学ぶ 1. 臨床解剖学 2. 臨床病理学 3. 臨床生理学	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
臨床推論 (選択)	45	症候学、臨床検査・画像検査、臨床疫学を学び、演習を通して臨床推論に必要な知識を習得する。	臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を学ぶ 1. 診療のプロセス 2. 臨床推論（症候学を含む）の理論と演習 3. 各種臨床検査の理論と演習 心電図/血液検査/尿検査/ 病理検査/微生物学検査/ 生理機能検査/その他の検査 4. 画像検査の理論と演習 放射線の影響/単純エックス線検査/ 超音波検査/CT・MRI/ その他の画像検査 5. 臨床疫学の理論と演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
臨床推論： 医療面接 (選択)	15	医療面接の理論と演習・実習を通して、症状の変化に対応し、身体所見・検査所見から病態を把握する臨床推論のプロセスを理解する。	1. 医療面接の理論と演習・実習	[授業形態] 講義、演習及び実習 (医療面接) [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価
フィジカル アセスメント： 基礎 (選択)	30	身体診察の基本手技を理解し、実践できる。	身体診察・診断学 (演習含む) を学ぶ 1. 身体診察基本手技の理論と演習・実習 2. 部位別身体診察手技と所見の理論と演習・実習 全身状態とバイタルサイン/ 頭頸部/胸部/腹部/ 四肢・脊柱/泌尿・生殖器/ 乳房・リンパ節/神経系	[授業形態] 講義、演習及び実習 (身体診察手技) [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価
フィジカル アセスメント： 応用 (選択)	30	小児・高齢者の特徴をとらえたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。 救急医療・在宅医療等の状況に応じたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。	1. 身体診察の年齢による変化 小児/高齢者 2. 状況に応じた身体診察 救急医療/在宅医療	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
疾病・臨床 病態概論 (選択)	40	主要疾患の病態と臨床診断・治療を理解する。	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 1. 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 循環器系/呼吸器系/消化器系/ 腎泌尿器系/内分泌・代謝系/ 免疫・膠原病系/血液・リンパ系/ 神経系/小児科/産婦人科/精神系/ 運動器系/感覚器系/感染症/悪性腫瘍/その他	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
疾病・臨床 病態概論： 状況別 (選択)	15	状況に応じた臨床診断・治療 (救急医療、在宅医療等) を理解する。	状況に応じた (あらゆる年齢・対象を含む) 臨床診断・治療を学ぶ 1. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習 2. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{※1} 評価方法 ^{※2}
医療情報論 (選択)	15	実践の場において、研究論文等を含む医療情報を効率よく収集・解析・伝達するための方法を習得する。また、情報倫理の観点から、医療情報の適切な取り扱いについて理解する。	1. 医療情報の定義 2. 文献検索によるエビデンスの確認 3. 医療情報の収集と活用 4. 情報倫理 5. 医療情報管理	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。
対人関係 (選択)	15	実践の場において、対象の理解に必要な基本的知識やスキルを習得する。	1. 対人関係論 2. コミュニケーションスキル 3. 対人関係演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。

- ※1 「演習」：講義で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、議論や発表を行う形式の授業をいうこと。
症例検討やペーパーシミュレーション等が含まれること。
「実習」：講義や演習で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、主に実技を中心に学ぶ形式の授業をいうこと。実習室（学生同士が患者役になるロールプレイや模型・シミュレーターを用いて行う場）や、医療現場（病棟、外来、在宅等）で行われる。ただし、単に現場にいるだけでは、実習として認められないこと。
- ※2 全ての共通科目（「指導」「医療情報論」「対人関係」を除く）において筆記試験を行うとともに、実習を行う科目については構造化された評価表を用いた観察評価を行うものとする。
(厚生労働省「特定行為に係る看護師の研修制度」
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000077077.html>)

■専門基礎科目・専門科目・学内演習・臨地実習

教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
1. 手術看護概論	1) 手術医療・手術看護の歴史及び背景と今後の動向を理解できる。 2) 手術看護の特徴と役割から、器械出し看護師・外回り看護師の専門性を理解できる。 3) 手術が安全かつ円滑に進行し終了するため、周術期における認定看護師の役割と機能について理解できる。	1) 手術看護の歴史 2) 手術看護の専門性 (1) 手術看護の特徴 (2) 手術看護の役割 3) 手術医療・看護を取り巻く背景 (1) 手術看護認定看護分野を取り巻く医療、社会の情勢 (2) 手術療法と医療経済（診療報酬制度を含む） 4) 手術決定から回復期の周術期における手術看護認定看護師の役割と機能 (1) 周術期における認定看護師の役割 (2) 術後身体侵襲を視野にいれた術前訪問と術前外来の意義 (3) 継続看護を意識した病棟看護師への情報伝達	15
2. 麻酔による生体反応	1) 麻酔が生体に及ぼす影響及び麻酔下にある患者の状態を理解できる。 2) 麻酔・手術によって起こり得る急変とその対応について理解できる。	1) 麻酔による身体への影響の理解と術前評価 (1) 麻酔の基礎知識 ①麻酔の危険性基準 ②麻酔法 ③麻酔薬 ④麻酔器 ⑤麻酔時使用器材の感染対策 ⑥麻酔による合併症 (2) モニタリングに関する指針 (米国麻酔科学会・日本麻酔科学会等) (3) ハイリスク患者の麻酔 ①合併症を持つ患者の麻酔 ②高齢者麻酔 ③産科麻酔 ④小児麻酔 (4) 麻酔薬の選択と薬理作用 (5) 疼痛管理 2) 急変時の対応 (1) 術中の心停止 (2) 肺塞栓症 (3) 危機的大量出血 (4) アナフィラキシーショック (5) 悪性高熱 (6) その他（低体温など）	45
3. 手術に対する生体反応	1) 手術侵襲が生体に及ぼす影響を、循環・呼吸などの観点から、手術部位及び術式によるリスクをふまえて、患者の状態を理解できる。	1) 手術による身体への侵襲の理解 (1) 手術部位の解剖生理及び術式による生命へのリスク、合併症 ①呼吸器系 ②循環器系 ③脳神経系 ④消化器系 ⑤その他（筋骨格系など）	15

専
門
基
礎
科
目

教科目	教科目のねらい	単元	時間数	
専門基礎科目	4. 手術を受ける患者の理解	1) 発達段階に応じて手術を受ける対象を理解できる。 2) 対象の発達段階に応じた、術前・術後訪問、オリエンテーション、プレパレーションについて理解できる。 3) 手術を受ける状況によって必要な看護について理解できる。	1) 発達段階に応じた対象の理解と対応 (1) 小児（プレパレーションを含む） (2) 成人 (3) 高齢者 2) 状況に応じた対象の理解と対応 (1) 緊急手術 (2) 局所麻酔手術 (3) 日帰り手術 (4) その他（最先端の手術医療など）	15
	5. 手術を受ける患者・家族の心理	1) 手術を受ける患者及び家族の身体的・心理的ストレス状況を手術の受容過程、危機理論、ストレスコーピング理論から理解できる。 2) 緊急時の手術と、通常の手術における患者・家族の心理的ストレス状況の違いについて理解できる。	1) 患者・家族の身体的・心理的ストレス状況の理解 2) 手術という危機状態の患者・家族の心理の理解 3) 手術の受容過程の理解 4) 看護実践への理論の活用 (1) 危機理論 (2) ストレスコーピング理論	15
	6. 手術室における感染対策	1) 手術患者の易感染性を理解し、手術室における環境管理、手術部位の感染防止対策、サーベイランス、職業感染予防について理解できる。	1) 感染成立過程の理解 2) 手術室の環境清浄管理（空調・設備・清掃等） 3) 洗浄・消毒・滅菌の概念の理解 4) 滅菌物の管理と取り扱い 5) 手術部位感染対策 6) 手術部位感染サーベイランス 7) 職業感染予防 (1) 針、メス、器械等による損傷 (2) 血液曝露 8) 感染性廃棄物の取り扱い	15
	7. 手術室医療安全管理	1) 手術医療・看護を取り巻く法的根拠について理解できる。 2) 手術室における患者誤認、手術部位誤認、体内異物残存、誤輸血、誤薬、機器の誤操作、転倒・転落、摘出検体の不適切な保存等の事故の背景や要因について理解できる。 3) 手術室における事故分析の観点及びリスク回避の対応策について理解できる。 4) 手術医療機器や放射線装置、医療材料、薬品の安全な使用・管理方法を理解できる。 (1) 手術室の設備について理解できる。 (2) 医療材料・看護用具等の開発への協力の必要性を理解できる。	1) 手術医療・看護に必要な法的知識 2) 手術室における医療安全対策 (1) ヒヤリハット、事故事例の情報共有 (2) 事故事例の分析及び改善計画立案 (3) 患者取り違え防止 (4) 手術部位の間違い防止 (5) 体内異物遺残防止 (6) 患者の搬送/移動作業に関連する安全管理 (7) 摘出検体の管理 3) 災害時の対応 4) 医療機器・医療材料・薬剤の最新知識の理解と適正管理 (1) 医療機器（麻酔器・手術器械・電気メス・内視鏡手術装置・ポンプ等）の安全な取り扱いと維持管理 (2) 手術室設備（電気系統・ガス配管・その他の環境を含む）の適正管理 (3) 薬剤、血液製剤の適正管理 (4) 放射線被曝の防護 (5) 医療材料、看護用具の適正管理及び開発への協力	30

	教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 科 目	1. 手術看護技術	1) 看護理論に基づく根拠やフィジカルイグザミネーションの知識を用いて、手術を受ける患者の看護過程を展開できる。 2) 手術中の患者の安全・安楽を守るためのアセスメントとその看護、予測されるリスクとその対応策について理解し実践できる。 3) 安全確保を含め、手術の侵襲を最小限にとどめ、術後の回復過程を視野にいれた手術看護実践ができる。 4) 継続看護や術中急変時における手術看護記録のありかたを理解し、説明できる。	1) 手術を受ける患者の看護過程の理解と展開 2) 手術を受ける患者のフィジカルアセスメント (1) 症状の把握と異常の早期発見 ①呼吸器系 ②循環器系 ③消化器系 ④脳神経系 ⑤筋・骨格系 3) 手術を受ける患者のリスクアセスメントとケア (1) 体位固定に伴う皮膚・神経障害、褥瘡予防策 (2) 体温管理技術 (3) 深部静脈血栓・肺梗塞の予防策 (4) ラテックスアレルギー対策 (5) 鎮痛モニタリングとケア 4) 器械出し看護師のモニタリング機能 5) 手術中の急変への対応 6) 手術看護記録	45
	2. 手術医療における倫理	1) 手術医療に関連する倫理的な問題について理解し、看護師の役割について説明できる。 2) 手術を受ける患者の権利を擁護する意味と背景を理解し、看護師の役割と責任について説明できる。	1) 手術を受ける患者の権利 (1) 患者の意思決定の尊重 (2) 患者への情報開示 (3) 手術におけるインフォームド・コンセント (4) 個人情報保護・情報管理 2) 手術を受ける患者の権利を擁護する看護師の役割と責任	15
	3. 心理的支援の技術	1) 手術患者及び家族の心理的負担を緩和する支援技術としてのコミュニケーション及びカウンセリングについて理解し実践できる。 2) 手術の受容過程に沿った患者への援助について、事例を用いて理解を深め、実践できる。	1) 手術患者への情報開示とインフォームド・コンセントの方法 (1) 医師がインフォームド・コンセントを行う場合の看護師の介入 (2) 手術室看護師として行うインフォームド・コンセント 2) 手術の受容過程に伴う患者の心理的負担を緩和する意図的なコミュニケーション (1) カウンセリング技法 (2) 手術を受ける患者の心理を理解するためのプロセスレコード 3) 家族への患者の情報提供と説明の場の調整	15

	教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 科 目	4. 手術チームマネジメント	1) 手術チーム医療における看護師の役割を理解し、説明できる。 2) 手術チームに関連する他職種の専門性を理解し、一人の患者の手術決定から終了までの間、手術チームメンバーのマネジメントについて事例を用いて実践できる。 3) 衝撃的な場面の多い手術場面において多大なストレスを受ける手術チームメンバー及び自分自身に対するストレスマネジメントを理解し、事例を用いて実践できる。	1) 手術チームにおける他職種の専門性の理解と調整 (1) 医師（麻酔科、診療科等） (2) 臨床工学技士 (3) 放射線技師 (4) 薬剤師 (5) その他 2) 手術看護の継続性に関連する他部門との連携 (1) 病棟、ICU 看護師との連携 (2) 外来看護師との連携 3) 手術チームにおけるストレスマネジメント (1) メンタルヘルスの理解 ①手術室内で起こるパワーハラスメントへの対処 ②アクシデントの当事者や発見者への対処 ③リアリティショックへの対処 ④自分自身に対するストレスマネジメント	15
	5. 手術看護技術指導	1) 手術室看護師に対する手術看護技術に関する指導について、企画・実施・評価できる。 2) 手術室看護師のケアや考えを引き出す教育的かわりによる相談について理解し、実践できる。 3) 手術室看護師や他職種に対し、認定看護師として知識を提供するだけでなく、ともに手術チームを構築するメンバーとして捉えることができる。	1) 手術看護技術指導案作成のための基礎知識 (1) 手術看護技術指導とは (2) 評価の方法 2) 手術看護技術指導案作成 3) 手術看護技術指導の評価ツールの作成	30

	教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
学 内 演 習	学内演習	1) 手術を受ける患者の看護過程を理論的根拠のもとに展開できる。 2) 実習において実践した手術看護を論理的に評価し、課題とその対応策を見出すことができる。 3) 体位固定に伴う皮膚・神経障害、呼吸、循環への影響に関する基本的知識を用いて、適切な手術体位を取ることができる。 4) フィジカルイグザミネーション技術を駆使し、アセスメントを実践できる。	1) 手術を受ける患者の看護過程の展開（術前訪問、術中看護、術後訪問の計画、実践、評価） 2) ケースレポート作成とプレゼンテーション 3) 基本的知識に基づく手術体位の実際 (1) 仰臥位 (2) 側臥位 (3) 腹臥位 (4) 砕石位 4) フィジカルアセスメントの実際 (1) 呼吸器系 (2) 循環器系 (3) 消化器系 (4) 脳神経系 (5) 筋・骨格系	60
臨 地 実 習	臨地実習	手術を受ける患者及び家族に対して看護を実践することを通して手術看護認定看護師として専門的な実践能力を高める。 1) 手術を受ける患者が抱える問題をアセスメントし、科学的根拠に基づく熟練した看護実践を養う。 2) 他の看護師に自らの看護実践を説明し、行動を示すことにより実践モデルとなり、具体的な指導・相談対応ができる能力を高める。 3) 患者を中心としたチーム医療の中で、他職種と協働を図りながら円滑に手術が進行できるための調整能力を高める。	以下の実習内容を通して、手術看護認定看護師に必要な看護実践能力、指導・相談対応・調整能力を養う。 1) 外回り看護師としてハイリスク患者（重症で複雑な病態をもつ患者）を含む3事例以上の看護過程の展開 2) 手術看護技術指導の実施、評価	180